

笑顔を咲かせよう♪

ちゅーりっぷ 通信

平成29年 7月号

いきいき暮らす、
あの人人に会いたい

第24回

音楽評論家・作詞家

ゆ かわ こ
湯川 れい子さん

本名・湯野川和子。1936年(昭和11年)東京生まれ。父方の湯野川家は代々米沢藩士。曾祖父・忠国は漢学者で、父・忠一は海軍きっての中国通といわれた海軍大佐。長兄・忠成はフィリピン・ルソン島で戦死した。1960年、湯川れい子の名前でジャズ評論家としてデビュー。以来、ビートルズ、エルビス・プレスリー、マイケル・ジャクソンなど世界のトップミュージシャンたちにインタビューを重ねて親交を結び、ラジオのDJやワイドショーのコメンテーターとしても活躍。とくに『全米TOP40』(旧ラジオ関東・現ラジオ日本)を始めとするラジオのDJでは、独自の視点による評論や解説で多くの音楽ファンに影響を与えた。また作詞家としても多くのヒット曲を手がけ、代表的な作品に『涙の太陽』、『ランナウェイ』、『センチメンタル・ジャーニー』、『ロング・バージョン』、『六本木心中』、『恋におちて』などがある。



東京・世田谷区のオフィス・レインボウにて

早くから女性の音楽評論家として第一線で活躍され、世界のポップミュージックをいち早く日本に紹介されました。

そうですね。先日も音楽関係の方とお話ししたときに話題になつたんですけど、男性の評論家にできることとできないこと、女性の評論家にできることとできないことって、本当にあるんだね、という話になりました。その典型的な例が、私が解説を書いたマイケル・ジャクソンの『スリラー』というアルバムの紹介ではないだろうか。解説を書くというのは、その音楽を聴いて、やはり評論家としての感性が問われる仕事なんですね。私は、このアルバム『スリラー』は、ポップミュージックの歴史を変えるだろう。ギネスブックの世界記録を塗り替えるだろうと書いて、結果的にそうなるんですけど、中村とうようさんという、大変優れた男性の音楽評論家が、まだ私の解説のついていないアメリカから来たばかりの原盤を聴いて、雑誌のレコード評での点をおつけになつたんです。

中村とうようさんという方は、大変な見識をもつた方ですけれども、その見識ゆえに、たとえば、黒人音楽であるのに、白人のヴァン・ヘイレンのギターを入れたりして黒人音楽が築いてきたものはないがしろ

にしていて、音楽的にまったく面白くないと言つて〇点をつけられたわけです。

私は、そんな理屈ではなく、このアル



バムには本当に生き生きとした躍動があり、しかもファイジカルなダンスと融合させて音楽の原点を復活させている。マイケル・ジャクソンは当時わずか21歳か22歳で、ワクワクしてしまって、本当に素晴らしく心が躍ったんです。男性の評論家と女性の評論家の違いは、そんなところにあるのかも知れません。私はそれを皮膚感覚よりも、もっと鋭敏な『毛穴感覺』と呼んでふるふるですけれど。

湯川さんは音楽評論家としてじく初期の頃から、低く見られたり軽んじられるものに寄り添うといつスタイルだったような気がします。

そうかもしれませんね。そのことをはつきり意識したのはピートルズが来日した時でした。公演の会場は武道館と決まったわけだけれども、あんな下等な音楽に神聖な武道館を貸すとはけしからんとか、あんなわけのわからぬのに日本の女がキャーキャー騒ぐのははしたないとか。当時の識者といわれる人たちの反応はそんなもので、まとわりに評論する人はまだいなかつたんですね。でも、ピートルズのズボンがいけないんだって、ピートルズは人種も文化も超えて、同じ人間として、まあ、楽しく生きようと思つてゐるだけなのに、それのズボンが悪いのかと。仲良く生きる」と、戦争することを比べたら、どうかがいいかわかりきつたことじゃないですか。それなら私は『キャーキャー騒ぐ』側に立とうと、その時はっきりました。

それでピートルズに取材して、新聞社から借りた一眼レフカメラにストロボをつけて、証拠写真としてリンクスターに会つてゐる写真を撮つたり。なぜりノゴ・スターかといつて、私はリンクのシンゴペー

に幼い子供を残して亡くなるわけじつも。本当につひづ、悲しみじみでした。

ご自身について書かれた評伝を読むと、湯川さんが欧米のジャズやポップスに惹かれたのは、戦死されたお兄様の影響のようにも思えます。

そうですね。戦後始まった進駐軍放送(WVTRのちにTETEと改称)を聴くよになつた頃といふのは、兄の影響もなにも、ただただ楽しく気持ちよく聴いていました。実は、その中に戦争中、兄が防空壕を掘りながら、口笛で吹いていた曲があつたんです。それはまだ疎開する前の田舎にいた頃の記憶なのですが、兄が防空壕を掘り、そばで遊んでいた幼い私に童謡の「メエメエ子ヤギ」を口ずだしてくれたり、それが、実は敵性音樂とされたアメリカの曲だったわけなんです。だから兄は幼い妹にたずねられて、本当のことを語らなかつた。そのことに戦後、進駐軍放送を聴いてつぶつぶ思つた、あじつけました。

いま湯川さんが大事にされている言葉や思いがあると思うのですが、それをぜひ聴かせていただけませんか。

私はずっと型肝炎だったりして、いろいろ大変なこともあつたのですから、六十歳の坂といふのがなかなか越えにくくて。なんとか六十の坂をえつたらおつかれ越えたときに、なんだか幸福の法則みたいなものがあるのだなあと気がついて、それをちゃんと言葉でまとめようと翻訳して、「あいのえお」でまとめたんですね。

「あ」は会いたい人に会いたい。「う」は行きたいところに行きたい。「う」はつれしへとがしたい。

したドームがすくなく好きで、あのドームがあるからピートルズはいれだけのサウンドを作り出せるとと思つていた頃でしたから。

それに、彼は自分だけ後からグループに入つたという遠慮があつて、わりとすみつの方でうるうるしていたんですね。そうした姿がちょっととかわいそつといつ思ひもどりかにあつたのかも。ジョンは意地悪で相手にもしつくれませんでしたし、誰と撮つたんですかね。あの頃からポール・マッカートニーは、ピートルズを仕切つていたんですね(笑)。

プレスリーやジョン・レノンといつた20世紀を代表するスターたちの栄光と悲劇を音楽評論家として見届けていましたね。

そうですね。ピートルズの人気がものすごく出てきた時というのは、アメリカでは映画産業が落ち田になつて、ハリウッドの余つたスタジオをテレビ局に貸していた時期なんですね。そのテレビ業界からモンキーズというバンドが作られて、人気者になるわけですけれども、その人気も4年くらいで、あつとう間に使い捨てにされるんですね。

私はそのモンキーズが来日する前から同行して一緒にオーストラリアに行つて、そこから彼らを日本に連れてくるといつた、つまつまの仕事をしたことがあります。彼らがバンドとしてどう作られ、どのようになつて解散させられたかを田の当たりで見ていました。ずっと一緒にだからたくさん話もするし、とても仲良くなりました。そのメンバーの中でもジョン・スター・ジョンズといふ人はとても頭がよくて、

1967年当時でしたのが、ベトナム戦争に反対するといつようなことを熱っぽく話すんですね。作られたアイドルだけど、意見をはつきりと語る。そのことに新鮮な驚きを感じましたし、その彼を含むモンキーズがなんの権利も残してないはず、突然仕事がなくなるわけですから、本当に悲惨だと思いました。

イギリスの人気グループだったベイ・シティ・ローラーズも、人気がなくなると生活ができなくなつて、日本からたくさん雇っていたファンレターの切手を、メンバーのおばあちゃんが大事に切り取つて、最後はそれをお金に換えてしのいだといつ玒ソードもあります。

世界を揺るかすようなスーパースターであつても、流す涙や眠れない夜の苦しみは私たちと同じなんですね。だから、エルビスが孤独の中でもだえ苦しんで死んでいったことは本当にひかつた。私はいつとしていられなくてメンフィスに飛んで、彼のお葬式の記事の載つた新聞を買つてきて、それをプレスリーに影響を受けたと語つてたジョン・レノンにあげたのだけど、そのジョンはでもが、それから3年後



「え」は選ばせてもやつた。「ね」はねつこものを食べたつうことなんですね。

「会いたい人」というのは、この人に会つておかないと、仕事がうまくいかないとか、役に立つとか立たないとかでなく、本当にその人が好きで、会いたいと思う人に会つことなんですね。たとえ、なかなか会えない人でも、

「う」は、しかたなく行くのじゃなくて、いまは行くことができなくても、心底行きたいといふに行くことらしいこと。

「う」のうれしきことや、ハンドバッグを買うとか立派な家に住むにむじやなく、まわりの人たちがうれしいと、ともに喜んでくれるなどが、実は一番うれしいことなんだとつづります。

「え」は、不平不満があつたり、苦しきことがある人はたくさんいるんですけど、結局、朝何時に起きて、何をするかといつてを命めて、全部自分の選びかたなんですね。自分がたまやかな物事を選んできたことの結果が現在なのだから、よりよい物事を選びたいといつづります。

「お」の、おこしこものを食べるといつづるのも、健康や精神の状態を領めて、こう「ハーフイヤンソン」を自分の保つようにしないといふことなんですね。

それで「あいのえお」を自分の幸福の法則にしようと考へて、なんとか今までやつてしまつた。八十歳になつてからは、さらに心がけていることがありました、それは「転びな、風邪ひくな、欲はかかずに義理をかけ」なんですね(笑)。だから最近はお葬式などめたに行かないんですけど、でも、そんな遠くない将来、私もそうちに行くんだからじめんなさい将へ、心の中で謝つてゐるんですよ(笑)。

町さんの背負われた苦労を思うと、今、ヘルパーさんの手を借りてしている親の介護も苦労の内に入らないと改めて感じました。テレビでお見受けする笑顔からは想像もできない半生を歩んでこられたのですね。講演会にぜひ伺います。(港北区S様)

インタビューの紙面では語り尽くせないお話をたっぷりと聞きます。町さんのおかげで、夏が来る前に秋が来るのが楽しみです。義理の妹もホームページで読む「ちゅーりっぷ通信」を楽しみにしているので、9月と一緒に行こうということになりました。当選しますように。(西区K様ご家族様)

鳥かごのウォールステッカー買いました。町亞聖さんの前向きな姿もかっこいい。クイズも毎回ひねりがあって面白い。本当にいい情報がたっぷり詰まっちゃうりつぶ通信です。

(保土ヶ谷区H様ご家族様)

クイズの答え

- | | |
|-----------------------|--------------|
| ①七/八/一/二=18 | ⑥八/六/一/二/三=8 |
| ②一/一/一/八=11 | ⑦三/二=6 |
| ③千/千/万/千/万
=24,000 | ⑧十/八/三=54 |
| ④五/一=4 | ⑨三/三/一/一=3 |
| ⑤万/百=9,900 | ⑩百/百/十/十=10 |

皆さまからのお便りをお待ちしています。

編集部では、ご意見、ご感想、とりあげ欲しいテーマなど皆さまからのお便りをお待ちしています。お便りをくださった方の中から、抽選で5名様に薄型ルーペをプレゼントいたします。ふるってご応募ください。

〒220-0021 横浜市西区桜木町6丁目31番地 6階
横浜市福祉サービス協会「ちゅーりっぷ通信」編集部



神奈川県看護賞 受賞

ナイチンゲール生誕の日の5月12日に、研修センター担当課長落合恵子が「神奈川県看護賞」を受賞しました。今回52回目となる本賞は、多年にわたり県内で業務に励み顕著な業績をあげた保健師、助産師、看護師等を顕彰する制度です。

落合は昨年3月まで、市の看護職員として大学病院や市民病院に勤務し、看護業務を標準化するための枠作りや業務改善の推進に尽力しました。今回の受賞は

大学病院や市民病院に勤務し、看護業務を標準化するための枠作りや業務改善の推進に尽力しました。今回の受賞は、「働きやすい職場環境作りへの貢献」などの評価によるものです。今後は、「お客様がその人らしく在宅生活ができるように、看護と介護のコラボレーションを目指したい」と落合は抱負を語っています。



今月の協会ニュース

「お客様相談室」をご利用ください

「お客様相談室」では、事業やサービスについてのご意見やご要望をお受けしています。まずはお気軽にお電話ください。

♪0120-701-782 FAX 045-227-1721

介護者のための相談電話

介護に疲れたとき… ほっとライン

介護に疲れて行き詰まったり、不安になったりしたとき、ひとりで悩まないで、ほっとひと息ついてみませんか?

♪045-227-1718

※受付は年末年始および祝祭日を除く月曜～金曜の8:45～12:00／13:00～17:15まで。ご相談の秘密は厳守いたします。

協会の理念

- お客様の満足
- 人を大切にし共に育ちあう企業風土
- 公正で透明感のある企業倫理

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

〒220-0021 横浜市西区桜木町6丁目31番地 6階

♪045-227-1700 FAX 045-227-1701
ホームページ <http://www.hama-wel.or.jp/>